

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	0174300434		
法人名	有限会社マザープランニング		
事業所名	グループホームぽぷらの家		
所在地	〒088-2302 北海道川上郡標茶町富士5丁目16番地 (電話) 015-465-1165		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年11月28日	評価確定日	平成21年3月19日

【情報提供票より】 (平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算	5.5人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	1 階建ての	1	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1ヶ月当たり 30,000 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.8 歳	最低 72 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	標茶町立病院	磯分内歯科診療所
---------	--------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、「地域の中で穏やかに」、「人間として尊重されること」などを理念として掲げながら、日々の介護を行っている。開設から5年が経過し、利用者の重度化が進む中で、食事の献立づくり等を利用者の意見を反映させながら行うなど、利用者が意見を表明する機会を大切にしている。また、事業所の向かいには幼稚園があり、事業所の広々とした共用空間を利用して、園児がお遊戯会の踊りを踊ってくれたり、事業所の畑にいちご採りに訪れるなどの交流を行っている。また、職員間の意思疎通も良く、離職も大変少ない。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>医療連携加算は検討中であるが、前回の評価を受けて、重度化について、家族や医療関係者、職員間で話し合いを行い対応をしている。介護計画については、担当職員が中心となって、介護支援専門員の適切な監理の下で作成するよう検討している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、1年の振り返りが行えるよう職員全員がそれぞれに記入しており、それをまとめて修正を加え、決定している。また、評価について運営推進会議でも説明するとともに、事業所内の誰でも見れる場所に置いて開示している。家族にもホーム日よりで閲覧の案内をしている。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、地域包括支援センター職員、家族代表、民生委員、町内会代表、幼稚園教頭、ホーム長、介護支援専門員、介護職員等が参加して開催している。会議では、事業所の年間行事の予定や報告、自己評価結果、運営上の課題等も開示している。また、地域住民に正しく認知症を理解してもらうための取り組みや、事業所の存在が認められ地域とのかかわりを深めることの必要性等も提言している。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>職員は、家族の面会や電話での連絡時等に、話しやすい雰囲気づくりに努めている。運営推進会議にも家族の参加があり、意見等を聴くようにしている。また、家族から意見、苦情等があった場合には、基本的にはホーム長が対応しており、必要な場合には職員全員に周知し、運営に反映させている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者の重度化が進み、地域の祭りや行事への参加は減少傾向ではあるが、事業所の行事には近隣の住民を招待したり、ボランティアの受け入れをしている。向かいの幼稚園からは、機会がある毎に園児が訪問しており、お遊戯等の披露をしたり、事業所の畑にできたいちご採りに訪れるなど、交流を続けている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念をつくり、利用者が、地域の中で穏やかに人間として尊重されながら暮らし続けることを支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンスや日常的な話し合いの中でも、理念を日々のケアに活かすように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣住民が、畑で採れた野菜や花、山菜等を事業所に届けてくれる。また、向かいの幼稚園の行事に利用者が招かれるほか、園児が、お遊戯の披露や、事業所の畑のいちご採りに来訪するなどの交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	1年間の振り返りにも役立つよう、職員全員が一人ひとり自己評価表に記入している。それをまとめて、再配布し、更に意見を求めながら自己評価を決定している。また、外部評価の結果は、運営推進会議で説明するとともに、評価表は事業所内の誰でもが見られる場所に置いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所行事の案内、運営上の問題のほか、自己評価、外部評価の報告等を行っている。また、地域住民の認知症への理解促進や、事業所の地域での関り方等についても話しあっている。	○	今後は、定期的な開催に向け、取り組むことが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は町担当者とも積極的に関わりを持っている。町担当者は事業所の状況を良く理解しており、協力を得ながら共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者一人ひとりの健康状態や生活状況を知らせている。また、家族の訪問時や利用者の状態の変化時には、その都度報告をしている。さらに、状況によって職員が自宅を訪問して家族等に報告するようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時だけでなく、様々な機会を利用して、意見や要望等を言い出しやすいように声をかけ促している。また、運営推進会議にも家族代表の参加を得ている。さらに、重要事項説明書には、外部の苦情相談窓口を明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はない。離職もほとんどなく、離職者がある場合には、良く慣れた職員に代わることで、利用者への影響が少なくなるよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、自ら介護福祉士、介護支援専門員等を目指して、外部、内部研修に参加しながら自己研鑽を重ねている。また、根室・釧路ブロックグループホーム連絡協議会にも加入し、その研修等に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	根室・釧路ブロックグループホーム協議会での交換研修を行っており、相互研鑽に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族による事業所見学、職員による家庭訪問等を行い、家族の協力を得ながら、馴染めるように支援している。また、利用開始時に、家族の協力によりセンター方式のアセスメント表にできるだけ記入し、利用者が早く馴染めるよう役立てている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から、昔の遊び、物語、昔のでき事等の様々なことを教えてもらいながら、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の食べたいもの、散歩、昔のビデオ鑑賞など、一人ひとりの希望に沿うよう努力している。また、重度化が進み希望、意向等の把握が十分できない場合には、家族から話を聴きながら、利用者が好きだったこと等をできる限り実現するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	地元で家族のいる利用者が多いため、家族の訪問時に相談しながら介護計画を作成している。介護支援専門員が基本の介護計画をたて、それを基にアセスメントを行い、スタッフの意見を聴いている。	○	今後は、担当者が介護計画の基になる原案を作り、介護支援専門員の監理の下に介護計画をたてるよう準備しており、実現が期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンス等では、利用者の状態等について職員間で話し合い、必要な対応などを共有している。また、状態変化時には、担当職員を中心にケア会議を行うなどしながら、現状に即した計画をたてている。	○	カンファレンス等での話し合いを基に、介護計画の見直しをするまでには至っていない。今後は、話し合ったことを見直しに繋げるよう努めるとともに、定期的な介護計画の見直しにも取り組むことが期待される。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	文化祭、産業祭り等の町のイベントへの参加、外食、利用者が参加している会の食事会への送迎など、様々な形で柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内の医療機関への受診時には、職員が対応している。かかりつけ医には、利用者の状況、健康状態等を良く理解してもらうようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設から5年が経過し、利用者の重度化が進んでいる。重度化への対応については職員間で話し合いをし、家族、医師等とも相談しながら、検討している。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねる対応は行わないことを徹底するよう、職員に話している。また、個人記録は、決められた場所で記入するようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間をはじめ、美容室や買い物、寺社等に行きたいなどの、その日の一人ひとりの希望に沿って支援するよう努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の重度化が進み、調理などは難しくなっているが、食事を楽しめるように、一人ひとりの好みや希望に沿って献立を工夫している。また、利用者の体調等にあわせ、茶碗拭きなど、できることを職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉を引いて沸かしており、また、入浴時にはBGMを流すなどリラックスできるように工夫をしている。利用者の重度化にあわせ、シャワー浴にしたり、介護浴のできる場所に出向いて湯船につかるなどの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の状況にあわせて、洗濯物たたみ、犬のエサやり等の役割や、傾聴ボランティアとの会話、歌やお笑い等のビデオ鑑賞、向かいの幼稚園児による事業所訪問などの楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩等で外に出られるよう支援している。また、利用者の状態にあわせて、犬のところまで歩いたり、日光浴等で少しでも戸外に出るなどの工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけることの弊害を理解しており、現在は鍵をかけていない。帰宅願望の強い利用者には、できる限り一緒に出かけた時、家族の協力を得るなど工夫しながら対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と打ち合わせを行いながら、防災訓練は年に2回行っている。また、救命救急講習も年1回行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	検食簿があり、職員は利用者一人ひとりのおよその食事量を把握している。また、排泄との関連も把握できるよう、水分量もチェックしている。さらに、一人ひとりの嚥下状態も把握して、とろみ食、刻み食等も提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、食卓テーブル、ソファ、畳の部屋等で、利用者は思い思いに過ごしている。また、写真等を飾ったり、季節感を感じられる飾りを置くなど、工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇に水をあげたり、自室に電話を引いている利用者もいる。各居室には、カーテン、絨毯、タンスなど、利用者が思い思いのものを持ち込んでおり、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。